

第4回下野市障がい者福祉計画策定委員会 議事録

日 時 令和6年3月12日(火) 午後1時30分から午後2時10分
場 所 下野市庁舎 303 会議室
出席者 委 員 : 別紙名簿参照
欠席者 8名 阿部委員、佐藤委員、水本委員、山家委員
粥見委員、本田委員、野原委員、大門委員
コーディネーター: 下野市障がい児者相談支援センター 鈴木相談支援専門員
事 務 局 : 福田健康福祉部長、仙頭社会福祉課長
社会福祉課障がい福祉グループ 北野、増淵、上野
傍聴人 なし
審議内容 (原則として発言委員名を明記し、発言の要点のみを記載している。)

1. 開 会

社会福祉課 仙頭課長

欠席報告 阿部委員、佐藤委員、水本委員、山家委員、粥見委員、本田委員
野原委員、大門委員

2. 委員長あいさつ

青山委員長

3. 議事

議事録署名人に藤田委員・野中委員を指名し了承。

パブリックコメントの結果について

(事務局)

資料1に基づき報告。

各委員からのコメント

➤加藤委員

1年間、障がい者福祉計画の策定に関わり、障がいを取り巻く様々な問題を抱えていると改めて感じた。障がい福祉だけは課題を解決できないこともあるので、そういう方についても共有できるような計画を作り、共有していきたい。

➤鱒淵委員

第1回の策定委員会から関わらせてもらっているが、現状をアンケートで把握し、

目標を一つ一つ積み重ね、作り上げていく作業は大変な仕事であると同時に、それに参加し下野市がよくなっていくのを見ていくことを誇らしく思う。国からの指導によって数値目標は変わるが、日本が障がい者の権利条約を批准し、国際的に見合うようにしなければならず、納得できない数字でもそうせざるを得ないということを実感した。実際にそれが地域の中で妥当な数字かというところも難しいところもあり、現場での我々も数字を念頭に入れながら、理想であってもそれに近づけていかなければならないと感じながら今回の計画を読ませてもらった。

➤小林委員

こぼと園は障がい児をお預かりする事業所であり障がい児の支援体制の充実ということがより身近な課題となっている。保育と療育の環境の充実というところは物だけでなく人も大切な環境であるということを感じ、両面から充実できるように今後も支援を進めていきたい。自立支援協議会の子ども部会の中で、児童発達支援・放課後等デイサービスの連絡会を今年度立ち上げたところである。今後各施設と連携をとりながら支援したい。また、福祉、教育、家庭の連携による切れ目ない障がい児の支援体制の推進では、国でも進めているトライアングルプロジェクトの中の一つとして、私たち事業所の方も協力し、長いスパンで一人一人のお子さんの育ちの心に寄り添っていきたい。

➤井上委員

障がい者、発達障がいのお子さん、強度行動障害のお子さんに関わるが多く、今回の目標に障がい児の通所施設を増やすことがあったのでよかった。在宅に戻るケース、病院で長期入院が難しく、地域に戻るケースが多いので、その中でサービスを増やすだけでなく質が求められると思う。計画を立てつつ、目標値を定めてある程度質を高め、地域で障がい者の方を支援していけるシステムを作れるといいのかなと思いつつ計画を読んだ。病院としても協力をしていきたいと思う。

➤鈴木委員

精神障がいの方を対応するということで、計画に記載があるが、地域移行等を通して地域に戻る方を増やすということが数字で掲げられている。また、共生社会というキーワードがあるが、ソーシャルワーカーとしてどうすれば共生社会の中で障がいを抱えている方たちが住みやすくなるのかを考えていく立場にある。病院としても地域に協力できることはしていけるような体制作りをし、当事者への支援をしていきたいと思う。

➤藤田委員

相談支援専門員として従事しているが、訪問看護ではご自宅にお伺いし、実際の生活の中での困りごとを多く聞く立場にあると感じていた。その声が、この様に会議を重ねることで、実際のサービスに反映されていると実感し、委員として経験を積めたことは貴重な体験だと思っている。当事業所は医療と福祉の繋ぎ目というところ

ころを強みにしていきたい。

➤野中委員

国分寺特別支援学校では、小学部1年生から高等部3年生まで、A1からB2までの知的障がいをもつ児童生徒が在籍している。昨日、卒業式が行われ、無事に35名の高校3年生が卒業した。そのうち29名が福祉サービスを利用する予定になっている。下野市では13名の卒業生がいて2名が一般就労で企業へ、11名が福祉サービスを受けることになっている。市社会福祉課と障がい児者相談支援センターへ引継書という形で、学校でやってきた支援、合理的配慮を継続できるように引継ぎをした。学校が一番児者への数や、実態が把握できる場所なので、今回策定委員会に関わり、連携を取りながら進めさせてもらった。また、下野市12月議会で重度の子の行先が課題になっているという一般質問があったが、毎年このくらいの数の児者が者になる。目標にあるように強度行動障害をもつ方の行き場所が無いので、今後その充実も連携を図りながら進めたい。

➤福田委員

今年度策定委員会に参加し、改めて下野市内の障害者手帳をお持ちの方の就労状況を知ることができた。国としても一般就労に出していく流れが強まり、この10年で感じているのは、精神障害者手帳を持っている人への企業側のイメージが変わっていると感じている。今年度自分が関わった中にも知的の重度に属する方で一般就労に出た方が複数名いた。企業側が受入に対して良好な態度になっている。逆に自分たちの方が、まだこの方は一般就労は難しいと壁を作っていると反省するところがあった。下野市は近隣市町に比べて手を挙げる企業が少ないが、増加傾向であるので、引き続き連携をお願いする。

➤寺内委員

当事者の親としては、自分で壁を作っていると感じている。私の子はA型やB型は考えもつかなかった。民間の就労を調べたり、面接会にも参加したが、10年前の大企業は精神障がい者の採用実績はほぼ0だった。家族相談会に参加したときに、今は状況が変わっているということを知り、考えを改めたいと思った。

➤早乙女委員

障がいの方が高齢者になる時に、今まで受けていたサービスがスムーズに移行できるように、相談支援専門員、介護支援専門員、障がい児者相談支援センター、地域包括支援センター、社会福祉課や高齢福祉課など、多くの関係機関で連携して話し合わなければならない。障がい児者相談支援センターと地域包括支援センターで連絡会を行っていて、今年度、サービス移行の手引きを作成した。それを利用し、住み慣れた地域で生活できるように、今後も各関係機関との連携を図りたい。

➤石嶋委員

障がい者福祉計画は総合的にまとめてられ、良いものができたと感じる。障がい者

ある方への進学や卒業後就労までサポートが必要だと感じた。一人一人のサポートのための「かけはし」など、生涯に渡り利用できる物があることを認識した。アンケートの中で、「かけはし」の認知度が低かったので、一人一人のサポートとして認知度を上げ、切れ目ない支援が受けられるといいと思う。

➤青山委員長

国の方針が示されれば、それを受けて県はどうか、市町はどうかという計画を立てられ動くことになるが、それには市や町にそれぞれ課題や特性があるので、それをどう捉え計画を進めていくかということになる。委員の皆様のを借りてアンケートを実施し、結果を踏まえて進めたわけだが、具体的に把握することは難しく、それで全てを捉えられているかを常に見ながら進めなければいけない。数字はある意味分かりやすく示しやすいが、数字に反映されない部分もあり、質についての課題もあり、関係する方々の課題や葛藤をどう把握するのか、こういった場でコメントを出してもらい、丁寧に拾っていく地道な活動が必要だと思っている。課題を共有し、それに適った計画を立てて実践していくことは、駆け足では難しいが、一步一步進めていくために皆様のお力をお借りしたい。また、本当に情報が必要とされている方にそれが届いているのか、どのように届けるのかという課題があるので、今後も引き続き続けていかなければならない。

4. その他

(事務局)

今回の計画の中ほどに、障がい者週間で募集したポスターを掲載させていただいている。印刷したものは委員の皆様及び関係機関にお配りする。一年間ありがとうございました。

➤福田健康福祉部長

この度は皆様方のご協力により、第7期下野市障がい者福祉計画を策定することができました。これまで本市におきましては、障がい児者に対する様々な施策を推進してまいりましたが、少子高齢化の進行、家族形態やライフスタイルの多様化、また精神障がいのある方の増加など、障がいのある人を取り巻く環境や課題は変化しております。本市といたしましては、障がいのある方が自分らしく、自分の意思に基づき共生社会の実現を目指していくため、第7期計画に掲げました施策の着実な推進と目標達成に向け取り組んでまいりたいと考えております。計画策定のため、熱心なご審議をいただきました青山委員長をはじめ、委員の皆様にご心から感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

今回で策定委員会は最後となりますが、この計画につきましては、地域自立支援協議会におきまして、進行管理をしながら推進してまいりますので、今後とも皆様の

より一層のご理解とご協力をお願い申し上げまして、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。大変ありがとうございました。

5. 閉会

議事録署名人 _____
